



<問い合わせ先>

北海道運輸局 国際観光課 笹野・志岐

TEL : 011-290-2723

令和6年11月6日

北海道運輸局

北海道における宿泊旅行統計調査をまとめました。

(令和6年4-6月期 (暫定値))

- ・北海道運輸局では、北海道における宿泊旅行者の動向や実態を把握することを目的として、観光庁が実施している「宿泊旅行統計調査」をもとに、北海道における宿泊旅行統計調査をまとめ、あわせて全国との比較をとりまとめております。
- ・観光庁が実施した調査結果については、以下のURLからご覧下さい。(観光庁HP)
(https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/shukuhakutokei.html)

【令和6年4-6月期 (暫定値) の主な特徴】

【延べ宿泊者数】

約912.9万人泊。令和5年同期比0.08%減(約913.6万人泊)、令和元年同期比7.2%増(約851.9万人泊)。

令和5年同期とほぼ同等の値となり、コロナ禍前の令和元年同期値を大きく上回った。

延べ宿泊者数の都道府県別順位では全国第3位(前年同期 第3位)。

【外国人延べ宿泊者数】

約162.7万人泊。令和5年同期比32.6%増(約122.7万人泊)、令和元年同期比5.8%減(約172.7万人泊)。

前年同期値を大きく上回ったものの、依然としてコロナ禍前の令和元年同期値までの回復に至っていない。

外国人延べ宿泊者数の都道府県別順位では全国第6位(前年同期 第4位)。

【国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数順位】

北海道は第1位が台湾(25.3%)、第2位が韓国(21.7%)、第3位が中国(8.8%)。

令和5年同期では、第1位が台湾(25.0%)、第2位が韓国(20.5%)、第3位が香港(10.6%)であった。

中国は昨年同期から大きく増加したものの、依然として令和元年同期値までの回復に至っていない。

令和6年4-6月期の集計結果

1. 延べ宿泊者数

【延べ宿泊者数】

・全国は約1億5,616万人泊、北海道は約913万人泊（全国の5.8%）。

【延べ宿泊者数の前年等同期比較】

・全国は令和5年同期比7.0%増、令和元年同期比5.6%増。

・北海道は令和5年同期比0.08%減、令和元年同期比7.2%増。

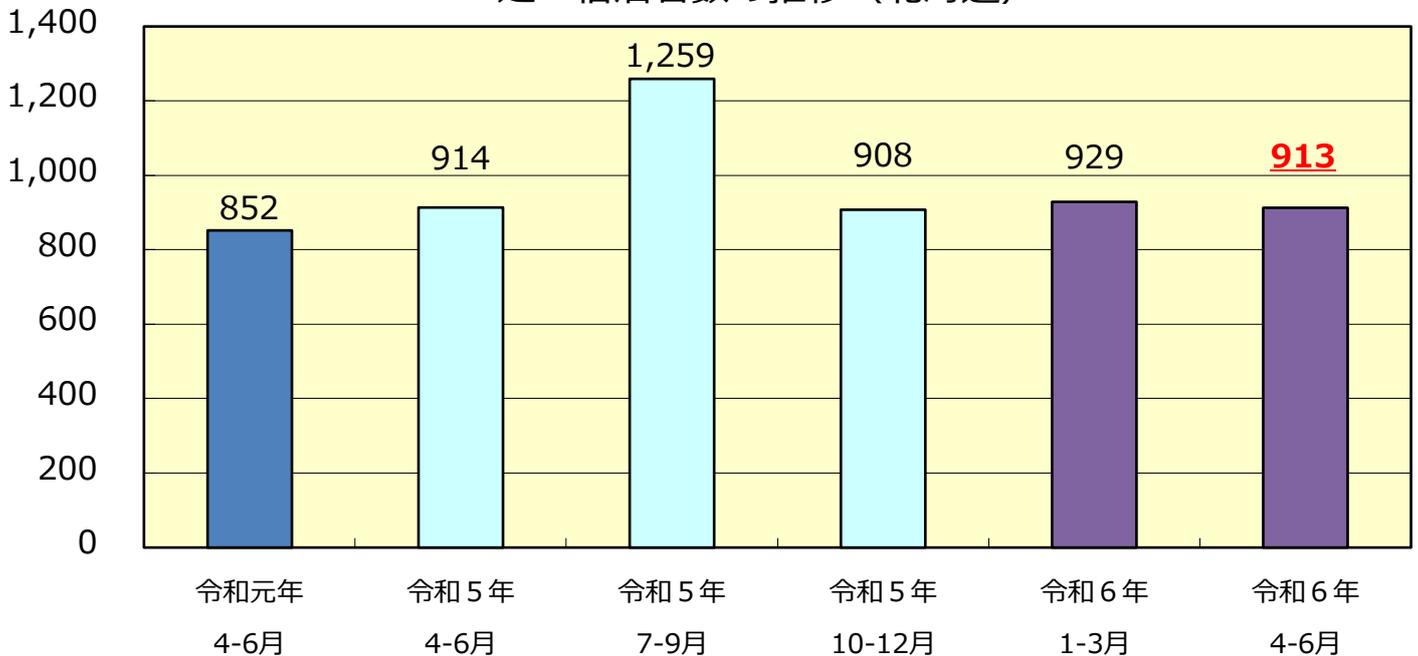
全国・北海道ともにコロナ禍前である令和元年同期値を上回った。

【都道府県別延べ宿泊者数】

・第1位は東京都、第2位は大阪府、第3位は北海道（前年同期 第3位）。

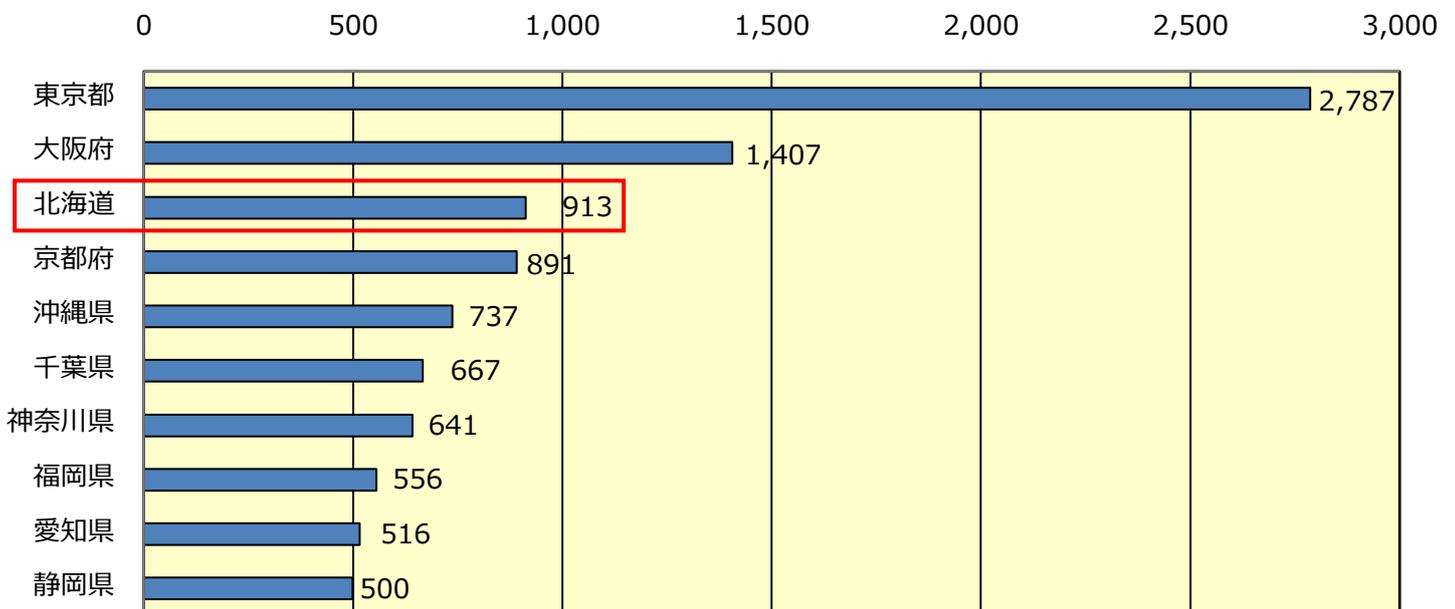
(単位:万人泊)

延べ宿泊者数の推移（北海道）



都道府県別延べ宿泊者数（上位10位）

(単位：万人泊)



2. 外国人延べ宿泊者数

[外国人延べ宿泊者数]

- ・全国は約4,153万人泊、北海道は約163万人泊（全国の3.9%）。

[外国人延べ宿泊者数の前年等比較]

- ・全国は令和5年同期比45.9%増、令和元年同期比35.7%増。
- ・北海道は令和5年同期比32.6%増、令和元年同期比5.8%減。
- ・前年同期値を大きく上回ったものの、依然としてコロナ禍前の令和元年同期値までの回復に至っていない。

[都道府県別外国人延べ宿泊者数]

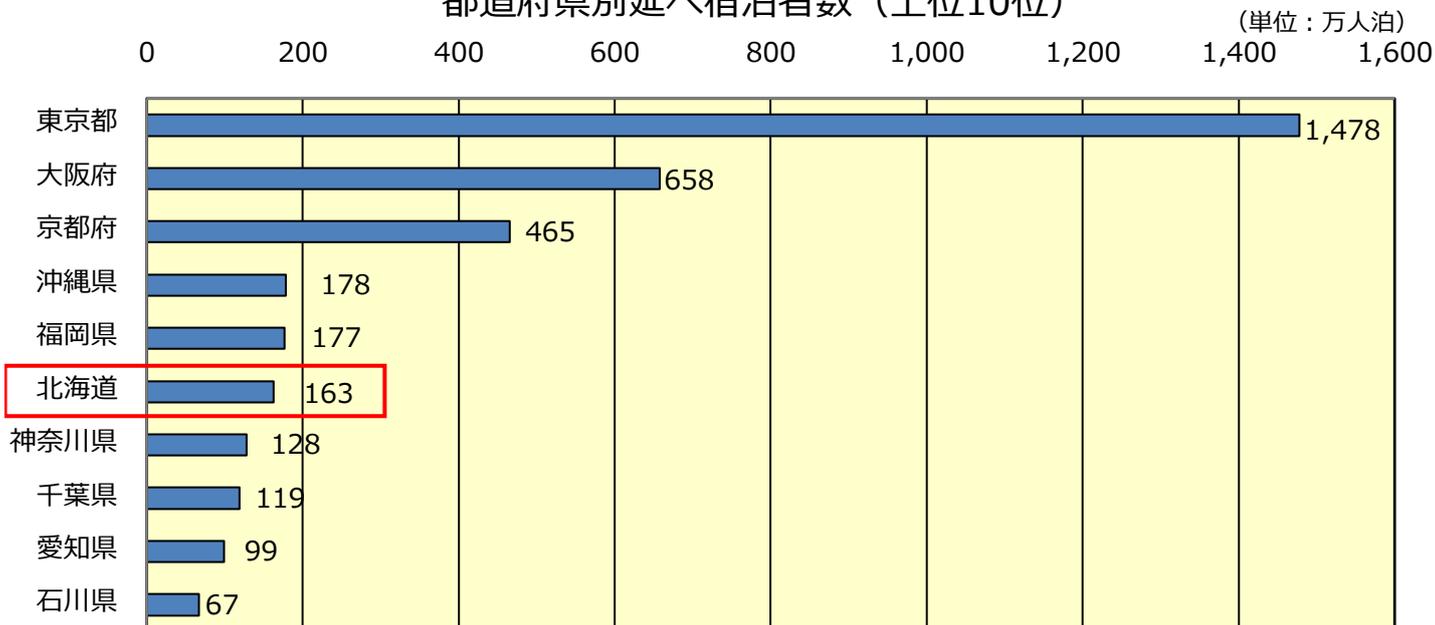
- ・第1位は東京都、第2位は大阪府、第3位は京都、北海道は第6位（前年同期 第4位）。

(単位：万人泊)

外国人延べ宿泊者数の推移（北海道）



都道府県別延べ宿泊者数（上位10位）

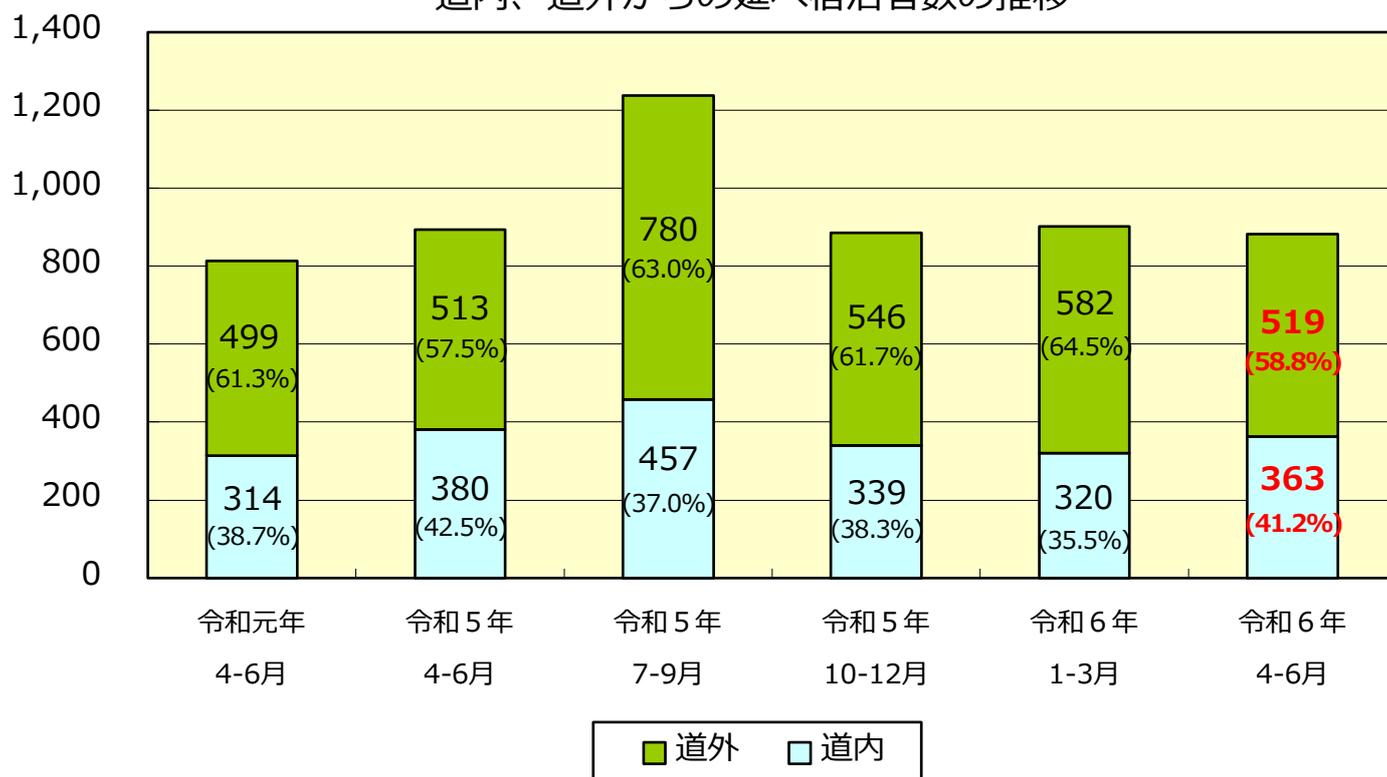


3. 道内・道外からの延べ宿泊者数

- ・道内からの延べ宿泊者数は約363万人泊、道外（外国人を含む）からの延べ宿泊者数は約519万人泊。道内及び道外の延べ宿泊者数の割合は、道内41.2%、道外58.8%となっている。
- ・令和5年同期と比較して、道内からの延べ宿泊者数が4.5%減、道外からの延べ宿泊者数が1.0%増となった。
- ・令和元年同期と比較して、道内からの延べ宿泊者数が15.6%増、道外からの延べ宿泊者数が3.9%増となり、どちらも上回った。

(単位：万人泊)

道内、道外からの延べ宿泊者数の推移



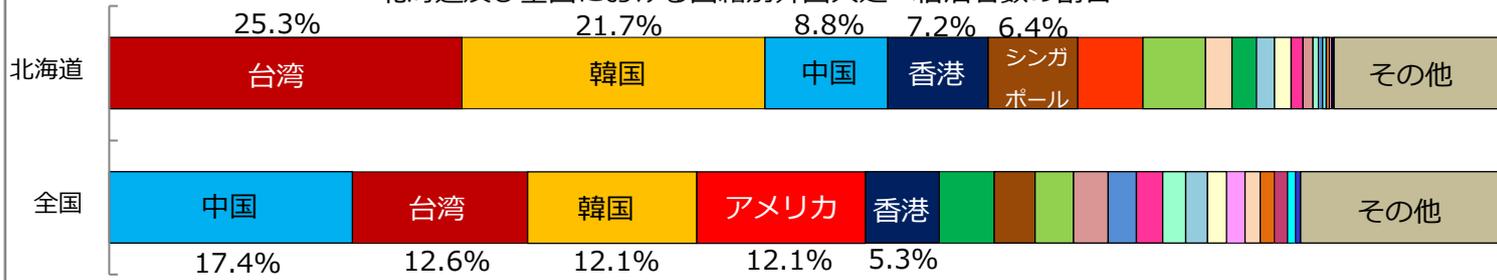
注：グラフの数値は居住地不詳者を除いているため、延べ宿泊者数の合計の数値と一致しない。

4. 北海道における国籍別延べ宿泊者数

- ・北海道における令和6年4～6月の国籍（出身地）別延べ宿泊者数は、1,513,850人泊となり、第1位は台湾（25.3%）、第2位は韓国（21.7%）、第3位は中国（8.8%）となった。
- ・北海道は全国に比べアジアの比率が高い。
中国は昨年同期から大きく増加したものの、依然として令和元年同期値までの回復に至っていない。

順位	国籍	北海道		全国	北海道	北海道
		(人泊)	シェア	シェア	令和5年同期比	令和元年同期比
1	台湾	383,190	25.3%	12.6%	40.8%	28.5%
2	韓国	329,020	21.7%	12.1%	47.4%	2.1%
3	中国	133,430	8.8%	17.4%	159.8%	-61.4%
4	香港	109,030	7.2%	5.3%	-5.5%	-22.8%
5	シンガポール	97,370	6.4%	2.9%	-1.0%	29.1%
6	アメリカ	70,690	4.7%	12.1%	26.7%	80.1%
7	タイ	68,030	4.5%	2.8%	61.7%	-35.5%
8	マレーシア	28,700	1.9%	1.1%	9.1%	-50.8%
9	オーストラリア	26,510	1.8%	3.9%	29.8%	35.7%
10	インドネシア	19,700	1.3%	1.6%	16.2%	-1.9%
11	フィリピン	18,050	1.2%	1.4%	17.4%	-15.6%
12	カナダ	12,900	0.9%	1.9%	36.9%	99.4%
13	イギリス	10,820	0.7%	2.5%	44.1%	45.0%
14	ドイツ	5,850	0.4%	1.7%	18.4%	84.5%
15	フランス	4,650	0.3%	2.0%	31.0%	64.9%
16	ベトナム	3,910	0.3%	0.6%	46.4%	42.7%
17	インド	3,530	0.2%	1.0%	54.8%	41.8%
18	イタリア	2,060	0.1%	1.3%	151.2%	54.9%
19	ロシア	1,500	0.1%	0.4%	134.4%	-75.0%
20	スペイン	1,380	0.1%	0.9%	30.2%	97.1%
	その他	117,640	7.8%	10.9%	55.0%	57.1%
	国籍不祥	65,890	4.4%	3.7%	55.5%	163.7%
	合計	1,513,850	100%	100%	39.1%	-4.2%

北海道及び全国における国籍別外国人延べ宿泊者数の割合



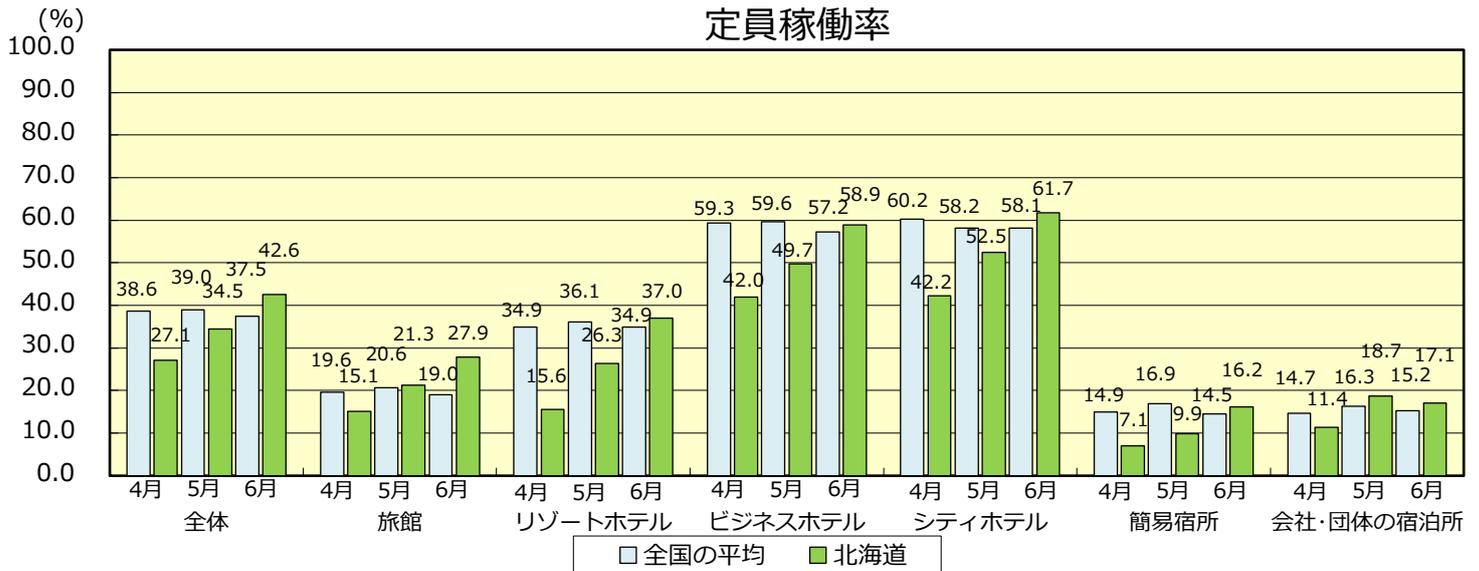
※国籍別に関する項目については、従業員数10人以上の施設に対する調査から集計しているため、国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数は外国人延べ宿泊者数の数値と一致しない。

※北海道及び全国における国籍別外国人延べ宿泊者数の割合のその他は国籍不祥も含まれている。

5. 定員稼働率及び客室稼働率

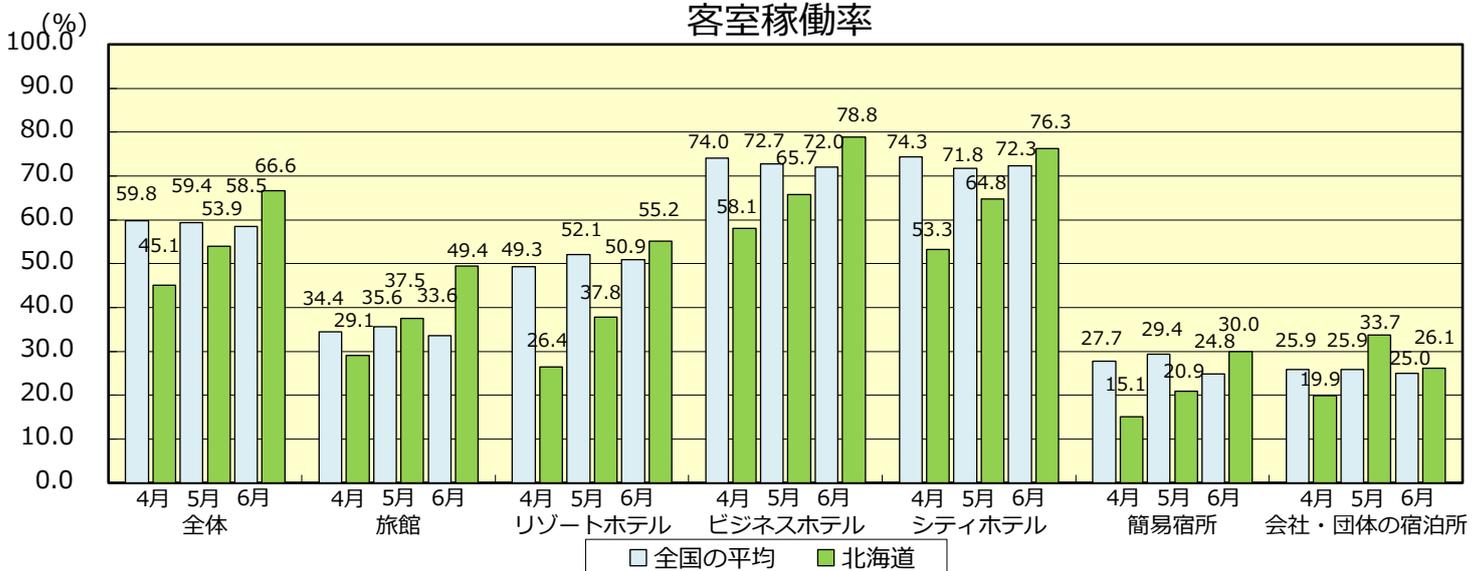
【定員稼働率】

- ・北海道の定員稼働率（全体）は、6月のみ全国平均を上回った。
- ・施設タイプ別において、4月は全ての施設タイプで全国平均を下回り、5月は旅館、会社・団体の宿泊所を除く全ての施設タイプにおいて全国平均を下回った。
6月は全ての施設タイプにおいて全国平均を上回り、特に旅館が大きく上回った。
- ・北海道の前年同期差は全体が+0.2ポイント、特にリゾートホテル(+4.1ポイント)が伸びた。
- ・北海道の令和元年同期差は全体が-8.3ポイントとなり、全ての施設タイプにおいて下回った。



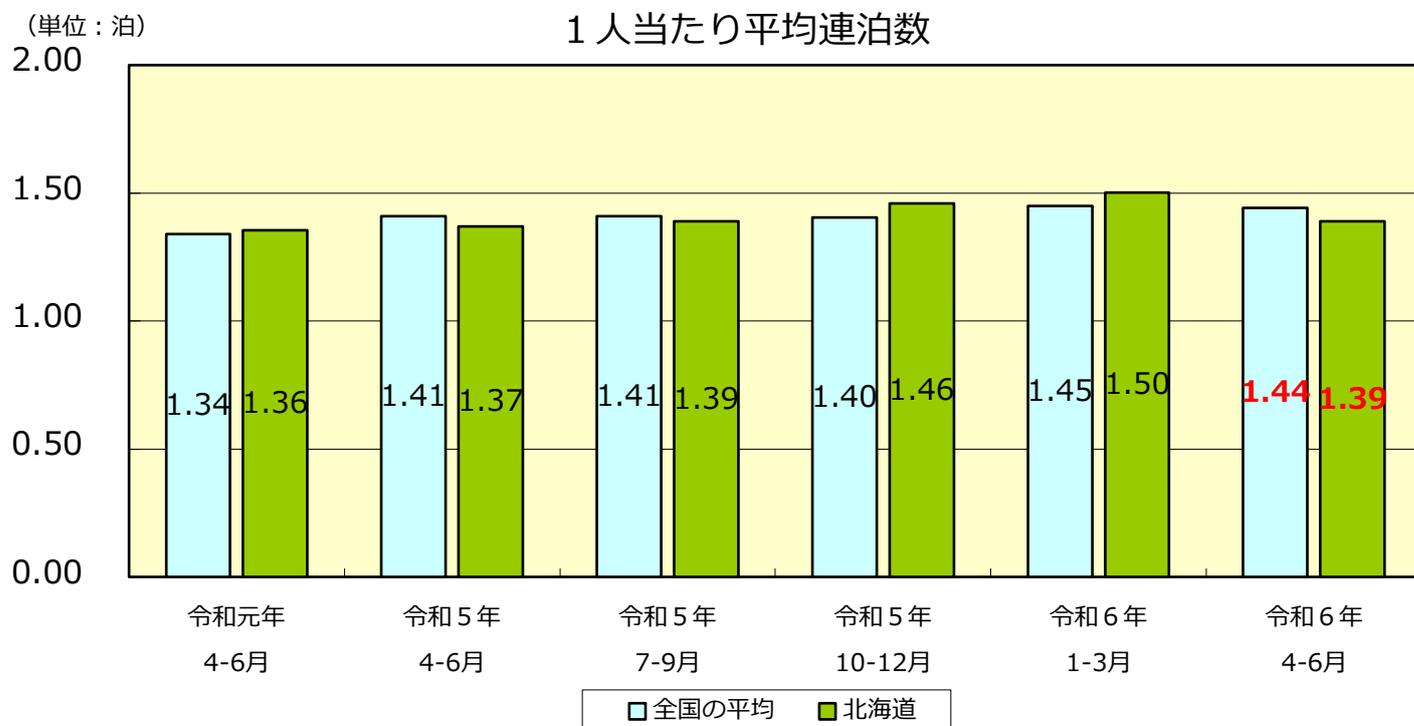
【客室稼働率】

- ・北海道の客室稼働率（全体）は、6月のみ全国平均を上回った。
- ・施設タイプ別において 4月は全ての施設タイプで全国平均を下回り、5月は旅館、会社・団体の宿泊所を除く全ての施設タイプにおいて全国平均を下回った。
6月は全ての施設タイプにおいて全国平均を上回り、特に旅館が大きく上回った。
- ・北海道の前年同期差は全体が+1.6ポイント、特にリゾートホテル(+6.0ポイント)が伸びた。
- ・北海道の令和元年同期差は全体が-7.3ポイントとなり、全ての施設タイプにおいて下回った。

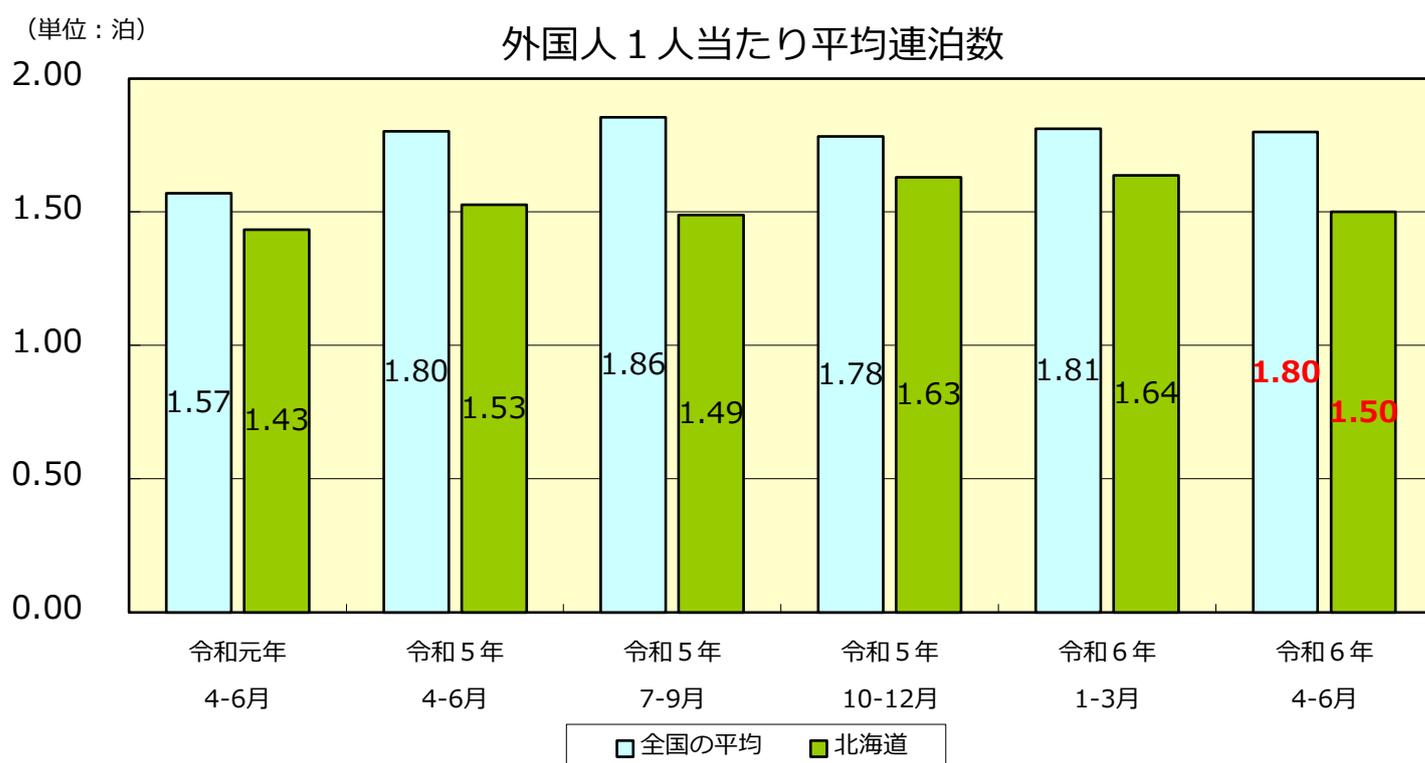


6. 宿泊施設における1人当たり平均連泊数

- ・ 宿泊施設における1人当たり平均連泊数は、全国平均1.44泊、北海道1.39泊となった。
前年同期と比較すると全国平均は0.03ポイント増加、北海道は0.02ポイント増加。
令和元年同期と比較すると全国平均は0.10ポイント増加、北海道は0.03ポイント増加となった。



- ・ 宿泊施設における外国人1人当たり平均連泊数は、全国平均1.80泊、北海道1.50泊となった。
前年同期と比較すると、北海道は0.30ポイント減少。
令和元年同期と比較すると全国平均は0.23ポイント増加、北海道は0.07ポイント増加となった。



宿泊旅行統計調査の活用における留意点

平成22年第2四半期(4~6月調査)から、従業員数10人未満の施設も調査対象となりました。

調査結果をご活用の際はご注意ください。

● 遡及推計(確定値)とは

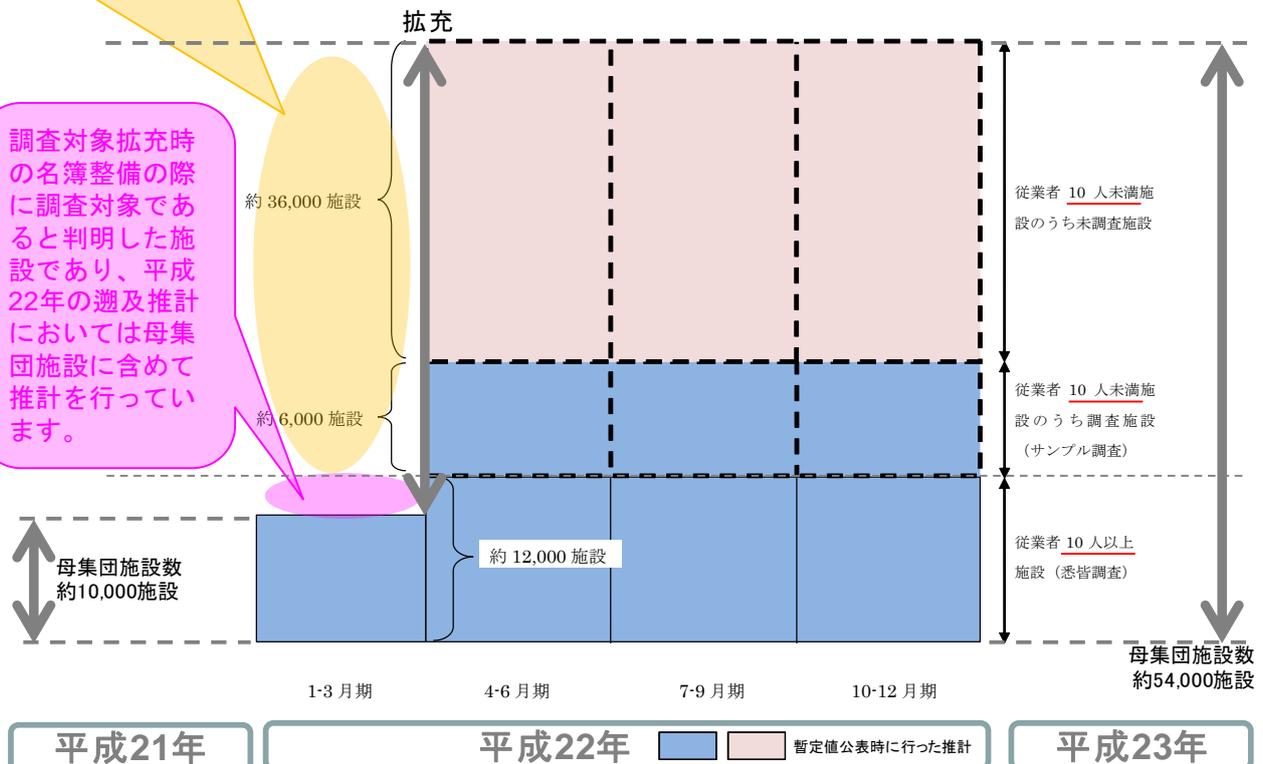
・1月1日現在の施設数を母集団施設数として1年間固定させ推計を行う四半期毎公表の暫定値とは違い、月毎の開業・廃業等を反映させた月毎の母集団施設数を基に推計を行ったものが遡及推計(確定値)です。

● 平成22年遡及推計の特徴

・平成22年第2四半期調査より調査対象を拡充しており、基本とする母集団施設数は拡充後の第2四半期のものです。また、第1四半期には調査対象外であった従業員数10人未満の宿泊施設等についての数値は一部参考値以外は推計を行っておりません。経年比較等する場合には、従業員区分等にご注意下さい。

遡及推計概要図

遡及推計においても推計を行っていません。



調査対象拡充の概要

1. 平成22年第1四半期以前の調査

(1) 調査対象施設:平成16年度事業所・企業データベース(総務省)を基に、国土交通省観光庁で補正を加えた名簿から抽出した、全国の従業員数10人以上のホテル、旅館、簡易宿所の宿泊施設

(2) 集計結果:全国の従業員数10人以上の宿泊施設における延べ宿泊者数等の推計値

2. 平成22年第2四半期以降の調査

(1) 調査対象施設:統計法第27条に規定する事業所母集団データベース(総務省)を基に、国土交通省観光庁で補正を加えた名簿から抽出した、全国のホテル、旅館、簡易宿所、会社・団体の宿泊所などの宿泊施設

調査施設については、従業員数に応じて以下のとおり

- 従業員数10以上の事業所 : 全数(悉皆)調査
- 従業員数5人~9人の事業所 : 1/3を無作為に抽出してサンプル調査
- 従業員数0人~4人の事業所 : 1/9を無作為に抽出してサンプル調査

(2) 集計結果:全国のすべての宿泊施設における延べ宿泊者数等の推計値